

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 4271102248 | | |
| 法人名 | 特定非営利活動法人 こすもす会 | | |
| 事業所名 | グループホーム なごみ | | |
| 所在地 | 長崎市琴海村松町319番地 | | |
| 自己評価作成日 | 平成30年10月27日 | 評価結果市町村受理日 | 平成31年2月14日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/42/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 福祉総合評価機構 | | |
| 所在地 | 長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内 | | |
| 訪問調査日 | 平成30年12月13日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた環境の中で、四季折々の果物等を収穫し、味覚を楽しみながら理念に基づき(共に生き、共に暮らし、共に楽しむ)ご利用いただいている皆様が、住み慣れた環境の中で、普通に泣き笑いしながら楽しく平穏な毎日をご過ごせるような環境と雰囲気作りに努めながら、地域に信頼され地域に貢献できる施設を目指している。そんな中で看護師が常勤し又夜勤においても看護師をアルバイトで採用し昼夜問わず利用者さんの異常の早期発見、早期治療によって重症化を未然に防ぎ、個々の健康を整えるために兄弟施設である(有)コスモス会訪問看護ステーションきんかい、及び他の医療機関との連携を密にし利用者さんそれぞれの症状に合った医療機関での治療がスムーズに行えるよう速やかに対応することができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは自然に囲まれた静かな環境の中に位置しており、介護理念「共に生き、共に暮らし、共に楽しむ」の下、職員は日々の支援に努めている。理事長は、自身が職員に接するように、職員には利用者へ愛情を持って接するよう日々伝えている。毎月職員へ渡す手紙には、感謝の言葉と認知症介護についての参考文書が記されており、職員を大切に思う気持ちが窺える。職員には看護師が多く健康管理のほか、急変時の対応においても利用者・家族の安心感に繋がっている。看取り支援では、本人・家族の意向に寄り合い、全職員で見送っており、忌明けまで家族との繋がりをもっている。理事長は包括支援センターと連携し、小・中学校や老人会での寸劇披露やオレンジカフェでの介護相談等行っており、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。職員が優しく寄り添い、利用者が自分のペースで安心して生活ができるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 『なごみ』は地域への貢献を掲げており、地域密着サービス事業として、住み慣れた地域で、ゆっくり、ゆとりを持って不安なく生活をして頂くために『共に生き、共に暮らし、共に楽しむ』を介護の理念としている。 | 利用者が安心して暮らせるようにとの思いを込めて、施設理念・介護理念を作成している。理事長は、日頃から、理事長自身が職員に接するように、職員には利用者に愛情を持って接するよう伝えている。職員は利用者一人ひとりに寄り添い、理念の具現化に努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 理事長自身が地元の出身で、地域の役員かつ、老人会へも入会している。また、地元の方もこすもす会の役員でもり、また、なごみ の敬老会にも参加して頂くなどし、近隣の方々より、野菜や果物を頂いたり、地域の方の出入りもある等から、利用者とも顔見知りが多い。 | 自治会に加入しており、理事長は地域の役員を務めている。地域住民とは挨拶を交わしたり、農作物の差し入れがある等交流があり、ホームの敬老会に招待している。また、商工会婦人部主催の小学生の体験学習や離島からの実習生の受入れを行っている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 施設見学やビジネススクール育成事業(商工会主催)地域の小学生の体験学習など積極的に受け入れている。地域以外の学生の実習も受け入れている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 地域老人会や地域総への参加時には、認知症介護の在り方やホームでの生活状況の説明を実施。自宅介護されている方には必要に応じてアドバイスも行っている。地域役員の方の参加もあるため現状報告と、災害時の協力等を併せてお願いしている。今年度はAED設置報告もした。 | 系列事業所と合同で会議を開催している。今年度は現時点で4回実施しており、年6回の基準省令を満たすよう取り組んでいる。会議では、利用者状況や事故の報告及び、質疑応答を行っている。支援方法等についての情報共有の場にもなっている。ただし、家族の参加は、半年で1回と少ない。 | 運営推進会議は、外部の人の目を通して改善課題を話し合う貴重な場であるため、家族へも会議の意義を説明し、出席を促す取組みに期待したい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 包括支援センター主催の勉強会等に参加している。認知症サポートキャラバン・メイトとして協力し、共に小学校や各老人会訪問へ参加した際は、寸劇を通して認知症への理解を深めるお手伝いをしている。介護相談員の受け入れなど必要な関係は保たれている。 | 認定更新手続きや事故報告の際に行政窓口へ出向いている。担当課員の定期的な訪問があり、看取り後の葬儀・納骨の際に関係各所と連携するケースもある。理事長は包括支援センターと連携し、小・中学校や老人会で認知症理解のための寸劇やオレンジカフェでの介護相談等を行っている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 虐待防止の勉強会参加や、身体拘束ゼロを目指して日々の介護業務にあたっている。また開設当初より昼間の玄関はオープンにしている。この数年は拘束・虐待の実例が無い。身体拘束廃止に関する指針も作成し職員がいつでも見れる場所に置いている。 | 「暴力受けても暴力するな」を合言葉に職員は身体拘束をしないケアに取り組んでいる。職員は外部研修に参加したり、給与明細に同封する理事長の手紙からもその認識を深めている。各利用者の行動パターンを把握し、昼間の玄関の開錠やセンサー等に頼らない見守る支援に努めている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている | 『暴力受けても暴力するな』を合言葉に、虐待・拘束はあってはならないと常に話をし職員に意識づけを行っている。特に新人の夜勤時には注意している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修会や勉強会に参加し、成年後見人制度について学び理解を深めるよう努めている。利用者家族にもパンフレット等を配布して相談があった時には、説明・アドバイスに対応できるようにしている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 包括支援センターや、利用者家族からの紹介見学があり、ご家族の要望によっては本人様にも、実際の現場を十分に提供いただいている。入居時には再度説明をし、納得頂いて入所してもらっている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 日常の介護の中で、言動や表情の変化を注意深く観察している。不満などが無いか確認をし、面会時にはご家族との会話を心掛け、要望を言いやすい雰囲気づくりに努めている。介護相談員の方の派遣も受け、相談に乗ってもらっている。 | 職員は、利用者の言動、表情や動作の変化を見逃さないよう注意して、要望をくみ取っている他、家族に対しては、来訪した際や電話で意見を聞き取っている。敬老会を年に1回家族を交えて開催している。会の楽しいひとときの中で家族が話しやすい雰囲気づくりに努めている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 管理者は常勤しており、スタッフ・利用者の方と生活や食事を共にしながら雑談、スタッフに意見を述べやすい雰囲気を保つように心掛け、必要に応じてアドバイスをし、方向性を指示する時もある。 | 月1回の会議は、職員の自主性を育てるため、敢えて代表者は出席せず、職員の意見が活発に出ている。会議の報告だけでなく、職員では解決が困難な問題について代表の意見を仰いでいる。運営に関して、職員の自主性を重んじる代表の気持ちは、職員に伝わっており、職員の働く意欲を高めている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 勤務状況を把握するため管理者は常勤し、経験年数に応じた介護ケアが出来ているかを観察する。お礼の手紙にアドバイスを添えて給料明細内に同封し、楽しく仕事ができるよう努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | レベルに応じた研修、GH連協における研修会など交代で参加している。また、事業所独自の勉強方法で教育し、疑問などには上司や管理者が説明・回答している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 研修会、事例検討会、GH連協主催のレクレーションなどに参加。また、他施設の行事に参加したり交流を持ちながら、介護の質の向上に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居に先立ち、ご家族と共に見学してもらい施設の雰囲気を感じてもらおう。ご本人の要望、ご家族の要望に耳を傾けながら、十分な情報を頂いている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前から相談に応じ、介護理念や日常生活の在り方などを説明し、場合に応じては頻回に面接等もしてもらい、ご家族が安心できるような関係づくりに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 最近では病院からの紹介が多くなってきているが、その方の状態・ご家族の要望などがある場合には、ショートステイや他施設の紹介も可能であることを伝えている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 認知症は神様が与えた休み時間であることを認識し、全スタッフが理念に基づき、お互いに楽しく共に支え合いながら、ゆっくり流れる時間を大切に出来る様に努めている。 | | |
| 19 | | ○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族によっては、遠方過ぎて面会に来れないなど様々であるため、誕生会やレクリエーション時の写真などを、状況報告と同封して郵送している。ご家族とも共に支え合っている関係を築いている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 流行性疾患がない限り、面会は制限していない。ご家族以外でも、親戚・友人・地域老人会の方の来所もある。月に1回、神父様にも来所頂いている。外部からの出入りは多い。 | 近所の美容室や理容室が行きつけとなっている。近隣の住民が野菜を持って訪れたり、毎月神父の来訪がある利用者もいる。体験学習の小学生から年賀状が届いており、利用者の心を和ませている。定期受診の際に、以前住んでいた家の近くを通ることもあり、馴染みの関係が継続できるよう努めている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | おやつ時間の前には皆でゲームや、食器拭きの手伝いをしてもらいながら、楽しく過ごせる雰囲気づくりに努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約終了後に不幸などの連絡があった場合は、葬儀に参列し、忌明け頃までは何らかの関係を保っていることが多い。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 表情や言葉遣い、動作の中から、その人の精神・身体的状況を把握し、状況に合った介護を展開し、個々のリズムにあわせ楽しいものであるように努めている。 | 毎日の生活の中で、聞き取った利用者の思いは、ケアチェック表に、記録している。難聴の利用者に対しては、耳元で話したり、ジェスチャーによりコミュニケーションを図っている。喫煙をする利用者に対しては、ライターを事務室で管理した上で、喫煙コーナーで許可している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 情報提供により、その人の趣味や癖。生活パターンを把握し、不足の情報は面会時等に補う。一日も早く施設の雰囲気慣れて生活して頂けるよう努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 個々の健康チェックはもちろんの事、1人1人の生活リズムを把握した上で、その人の・その時の状況に対応できるよう心がけている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎月のミーティングにおいて問題点などを話し合い、本人の希望を聞き取り、不明な点は本人やご家族と相談するなどして、時には主治医と相談し処方変更などで、その人らしい生活ができるような介護計画作成に努めている。 | 介護計画はサマリーと基本情報シートを基に本人・家族の希望を反映し、長期6ヶ月短期3ヶ月の目標を設定している。毎月のミーティングで職員が意見を出し合い、モニタリングを基に本人のニーズと支援内容を照合しながら、ケアマネージャーが計画を作成している。家族の同意と共に可能な限り本人の署名を得て計画を実行している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 健康状態チェック表に基づき、その日の健康状態や排尿回数、排便の有無を確認すると共に、一日の行動や訴えなどを時系列で、個別にカルテに記録記載し、皆で共有し合っている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご家族の要望があれば、外出・k外泊は何時でも可能。またその人の状態に応じ、買い物の手伝いやドライブ等行い、安らぎのある楽しい日々を過ごしてもらえるように支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域住民との交流はもちろんの事、小学生の体験学習や、種々研修実習など積極的に受け入れ、他施設や地域の行事にも参加している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 受診は入所前に通院、または入院されていた医院・病院への通院を原則としている。通院不可能な場合には、ご家族と相談し緊急時の対応も含め協力医療機関である近隣の病院へ紹介してもらっている。 | かかりつけ医を継続受診しており、職員が通院に同行している。受診結果は通院記録ノートや個人介護日誌に記録し職員間で共有している。月2回、歯科の訪問診療があり、各利用者の訪問歯科指導説明書を口腔ケアに活かしている。職員に看護師が多く、協力医療機関との連携体制も整っており、利用者・家族の安心に繋がっている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 理事長が看護師で常勤、看護師アルバイトが(日勤・夜勤合わせて)4名。理事長不在時には、兄弟施設である訪問看護スタッフの指示を受けるシステムになっている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 長期入院は認知の進行がある為、入院中寂しい思いをさせないように、顔見知りのスタッフが面会4に行く。主治医・担当看護師及びケースワーカーとの面談も密にし早期の退院に結び付けている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 夜間でも対応して頂けるよう、常に連携を図っており、利用者の方が重度化した場合には、ご家族と相談する。場合によっては訪問看護による医療行為を受けている。最終的には、医師、家族、施設と話し合い看取りか入院かを決定している。 | 入居時に「重度化した場合の対応に係る指針及び看取りに関する指針」を家族に説明し、同意を得ている。これまでに看取りの事例が多くあり、段階に応じて家族、主治医、訪問看護師等と話し合い、本人・家族の意向に沿えるよう支援している。看取り支援後は全職員で見送っており、忌明けまで家族との繋がりがあがる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時のマニュアル、連絡網を作成し、必要に応じ救急蘇生法の指導、シュミレーションを行い、図解をわかりやすい場所に張り出したりするとともに、吸引器も準備し、取り扱いも指導している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。 | 火災に関しては2階からの避難経路及び一時避難所を増設。通報装置(連動工事検査済み)スプリンクラー設置済み。年一回は消防署員の指導の下、地域の方の参加もいただき避難訓練を実施している。 | 毎月の自衛消防訓練の中で、初期消火や避難誘導、マニュアル検証等実施しており、夜勤アルバイトを対象とした避難経路等の説明と確認を行っている。年1回消防署立会いの夜間想定訓練を行っており、指導内容を訓練に活かしている。自動通報装置には地域住民の登録しており、非常時持ち出し用の利用者情報も纏めている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 言葉による拘束、虐待などがないように、スタッフ間で声掛けし合いながら、その人にふさわしい対応を心掛け、また個人のプライバシーを損なわないように十分注意している。 | 入居時に本人・家族と「個人情報の使用に係る契約書」を交わしており、個人情報の利用目的を明確にしている。職員は、守秘義務に関する誓約書を提出している。職員は、利用者が排泄の失敗をした際の声掛けについて、尊厳を損なわないよう注意している。ただし職員の利用者に対する口調が強い場合がある。 | 職員の利用者に対する声掛けについては、地域性もあるものの、利用者の尊厳を第一にする声掛けの強弱について改めて検討することが望まれる。 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 出来るだけ本人の希望に応じられるよう雰囲気づくりに努め、散髪に引率したり、施設必要物品の買い出しに同伴してもらっている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 基本的な一日の流れはあるが、大きなイベント以外は、週間・月間予定表はない。入居者の状態、天候、スタッフ勤務状況を見ながら、ドライブに出かけたりしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 日常生活自立の方へは見守り。自己決定のできない方へは介助をし、希望に応じて行きつけの理美容院に通ったり、化粧品購入など、お手伝いをしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事介助を必要とする方が増え、嚥下状態を観察しながら、声掛けをしたり、その人のペースに合わせ、時には本人が望むものを提供する。出来るだけ楽しみながら食事ができるように心掛けている。 | 昼食と夕食は、外部の専門の業者へ委託し、ホームではご飯を炊いたり、汁物を温めている。ホーム側から味付けや果物の形状、献立について細かな要望を先方へ伝えている。職員は、利用者へ寄り添い、本人のペースに合わせて介助を行っている。冬には、窓辺に吊るした手作りの干し柿を食べ、季節の楽しみとなっている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 昼食・夕食は外注食とし、専門栄養士による栄養計算(毎週)をしてもらっている。排尿回数をチェックしながら、おやつ時と食事中の水分補給には注意し脱水などにならないよう心掛けている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 定期的に歯科Dr.及び歯科衛生士に往診してもらい、検診・口腔内清潔保持の指導を受けている。毎食後の歯磨きや義歯の洗浄などを行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 健康状態観察表で排尿時間、誘導時間を確認しながら、時間的にトイレへ誘導し、失禁の軽減に努める。PWC使用の方にはコールにて介助排便調節にも心掛け、健康管理に努めている。 | 現在、利用者の状況は、おむつ、パッド、布パンツを使用している人、またポータブルトイレを利用している人と様々である。職員は、健康状態観察表に記録し、それぞれのパターンを把握し早めの誘導を行っている。便秘にならないよう気を配っており、医師、看護師の指示を仰いでいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 健康状態観察表にて排便の有無、便秘日数などチェックし、Dr.や看護師の指示のもと浣腸・敵便にて対応することもある。他にも受診時Dr.と相談して下剤の処方も受けている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 殆どの方が介助を必要とするため、個々の希望に応じた支援は十分といえないが、入浴順位などは気配りをし、失禁などがあった場合には、いつでもシャワー浴ができるような設備にしてある。 | 利用者の介護度は様々であるが、できるだけ浴槽に入ることができるように支援している。やむを得ず、シャワー浴のみの場合は、寒くないよう充分にお湯をかけるよう介助している。冬は、入浴前に浴室のドアを開放し、脱衣所との温度差を少なくするよう配慮している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 生活リズムを整え、不安の除去に努めながら、夜間十分な睡眠がとれるよう支援。眠剤も主治医と相談して最小限度の安定剤・眠剤にしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 処方された薬の説明書を個々のカルテに綴じ込み、薬の作用・副作用がわかるようにしている。処方変更時にはリーダー簿にも記載し、申し送りもする。誤薬のないよう注意しながら与薬。薬は事務所で管理している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 長期入院に伴い体力低下の方が増え、車椅子での生活になり、生活歴を活かした役割行動は少なくなってきているが、元気な方には食器拭きなどの手伝いをしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 日用品、消耗品など買い出しの荷物持ちなどで、手伝ってもらったり、理美容院への引率など限度はあるが、定期受診時などを活用し、できるだけ個々の要望に応えられるよう努力している。また集団で花見などに出かけている。 | 利用者から買い物に行きたいという要望が出た場合には、職員が同行している。食材の買い出しや病院への定期受診の往復を利用して、外気に触れるよう配慮している。春には花見、冬にはランタンフェスティバル等に出かけ、季節感を大切にしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 入居時にご家族との話し合いにて、基本的に自己管理はない。嗜好品・日用品は殆ど代理行為で施設が一時立て替えの状態を取っている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 手紙は受け取ることが殆どで、外出・外泊などの確認のため、要望があれば電話してもらっている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者の方と信頼関係を築きながら、居室の整理整頓、四季折々の果物を提供したり、事務所入り口に花を置いたりしながら、室温の調節などに気配りして、気持ちよく生活ができるように支援している。 | クリスマスツリー等イベントごとの飾り付けや軒下の吊るし柿等から季節を感じることができる。利用者が自室とリビングを行き来する様子や職員と談笑する光景から居心地のよい空間であることが窺える。また、各階の入口前には、喫煙スペースを確保している。ホーム内は職員が毎日清掃・換気を行っており、気になる臭気はない。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 殆ど居室での生活が多いようであるが、リビングにてレクレーションを楽しんでもらっている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時、危険物でない限りは荷物の制限はしていない。ご家族にも出来るだけ馴染みの物を持って来られるよう依頼している。また本人の要望があれば、家具類を揃えたりしながら、少しでも居心地の良い施設であるよう心掛けている。 | 居室への持込品に制限はなく、タンスやテレビ、家族の写真等馴染みのものや好みのものを自由に配置している。来客時に自室でゆっくりと過ごせるよう椅子とテーブルを設置している居室もある。自室の目印としてドアに好みのマスコット下げており、職員が清掃・換気、温湿度管理を行い、居心地よく過ごせるよう支援している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 理解が不十分な方には、居室ドアに『お気に入りのマスコット』をぶら下げたり、居室でもゆっくり面会できるように椅子・テーブルを設置している。 | | |